

多様な地域主体による ストリートデザイン・マネジメントに関する研究

都市イノベーション研究院 三浦詩乃

1. 研究の概要

‘人間中心’の理念の下、街路(ストリート)環境改善を継続してきた70年代の先駆的取組みに対する調査を行い、交通ネットワークとしての機能を保持しつつ、地域のための公共空間としての質を向上するマネジメントの方法論構築を目的とした。従来ハードとソフトと二分して捉えがちであった街路施策について、「制度、政策立案」から「空間計画」、地域の担い手による「マネジメント」までの一連のスキーム再構築の重要性を説いた。

2. 研究の独創性・特徴

- ①戦前街路・戦災復興街路研究とは対照的に、地域組織によるマネジメントの概念が定着した戦後以降のストリートの変遷を分析した研究はほとんどない。本研究はデータの新規性や資料価値を兼備した研究成果を上げた。
- ②縮退化社会に転換していく中、終戦直後～高度成長期の間には制定された道路法・道路交通法・道路構造令の下における現況の地域主導のマネジメントの限界を示し、「街路」、「広場」、「道路」の新たな概念提示の必要性を提示した。

3. 成果

2016年5月:日本都市計画学会論文奨励賞受賞

4. 今後の研究活動の展望

- ①出版による関連成果の公開(2018,19年度中に3冊予定)
- ②ユーザー属性・活動の多様性からみたストリート空間の質に関する研究
- ③国内・アジア中核都市の街路空間再配分とその効果に関する研究